

平成25年度も黒字決算を達成

平成25年度の黒字額は、完全黒字を達成した平成24年度より7億12百万円増の15億44百万円となり、2年連続の「完全黒字」を達成し、基金残高も倉田哲郎市長が就任した平成20年度から89億円増加し、236億円となっています。これらは、倉田市長が就任以来取り組んだ行財政改革の成果です。

●経常収支比率の着実な改善

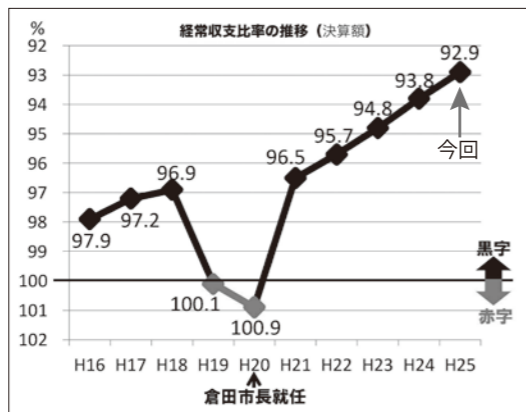
家計に例えると、「毎月の収入で、毎月の生活費がまかなえているのか？」を示す経常収支比率は、倉田市長が就任後の平成21年度以降、一度も前年度を下回ることなく着実に改善しています。

●必要などころには十分に投資

倉田市長は、行財政改革を強力に推進しながらも緊縮・縮小の一辺倒ではなく、必要などころには十分に投資し、市民生活の向上を実現しています。

例えば…

- ①子どもの医療費助成の大幅拡大



対象を入院・通院ともに所得制限なしで「中学校卒業まで」に大幅に拡充（政令市を除く大阪府内で始めて）

- ②中学校給食室の整備

全中学校（6校）に給食室を整備し、各校で調理を行う自校方式による給食を開始

- ③地域防災ステーションの整備

地域コミュニティの活動拠点となる公園15か所に消火・救助用資材を配備した「地域防災ステーション」を整備

- ④住民交流の核となる拠点の整備

「小野原図書館」「多文化交流センター」「稲ふれあいセンター」を新たにオープン

などなど、倉田市長は、「安心・支えあい最優先」「子育てしやすい日本一」「緑・住みやすさ最先端」の3本柱で市政を運営しています。



北大阪急行線の延伸事業推進中

半世紀前、はじめて箕面市の総合計画に書き起された北大阪急行線の延伸。ほとんど「都市伝説」となっていました。今年3月、正式に事業化が決定し、大阪府、阪急電鉄、北大阪急行電鉄と箕面市が「基本合意書」に調印しました。

倉田哲郎市長ならではの柔軟な発想力と行動力が国を動かす補助を拡大できた結果です。現在は、平成28年度の着工をめざして、鉄道事業者とともに詳細な地質調査や測量調査、設計作業などを進めていることとで、鉄道整備の許認可や都市計画など多くの手続きが必要だそうです。

新駅周辺のまちづくりについても各方面と協議を重ね、具体化を急いでいることとで、合意はしたものの、まだまだ越えなければならぬハードルがたくさんあります。

倉田市長には、箕面の将来のため、引き続き延伸事業や新駅周辺のまちづくりを強力に推し進めてほしいと思います。

倉田市長、がんばれ！

◆ 編集室に寄せられた

身近な市長さん

倉田市長さんとはじめてお話をさせていただき、市民との距離の近さに驚かされました。そしてもうひとつ驚かされたのが、同年代だったということでした。

最近では若い市長はめずらしくないことですが、やはり同年代だからこそ子育てや、教育についてわかることが多いと思います。

今までは、市長さんとお話する機会がなかったのですが、倉田市長さんならいろんなことを気軽に話せる方だと思いました。これからも安心して子育てができる住み心地のよい街になるよう倉田市長に期待しています。

外院一丁目 39歳 女性



声から

3年連続で大阪一なんて!

箕面市が住みよさランキング3年連続府内トップになったことを知り、箕面市民として大変嬉しく思います。

箕面市のHPでは、倉田市長さんや職員の方々の並々ならぬ改革・進取の取り組みが沢山紹介されていますが、箕面市はもともと住みよい街だったとは言えるものの、3年連続トップというのはいよいよこれらの政策が次々と実行された結果だと思えます。

近畿では2位だそうですが、5年後に北急が延伸されバス路線網が一新されれば、近畿でもトップは間違いなしでしょうし、日本一も視野に入るのではないのでしょうか。西小路一丁目 62歳 男性

倉田哲郎さんのブログ 40歳の日記
<http://blog.kurata.tv/>

検索

ツイッター(つぶやき)へも、ココから!

携帯電話でも見られます <http://mobile.kurata.tv/>



“箕面のチカラ”

2014年11月号

倉田哲郎後援会 Fax 06-7635-7195

箕面にこだわって走り続けます!!

市長2期目の公約の3本柱である、北大阪急行延伸、教育改革、公務員制度改革について強い決意をもって取り組んできました。皆さまのご理解とご協力により、いずれも大きく前進させることができました。

東京オリンピック開催と同じ年の2020年には、北大阪急行線の延伸により2つの駅が誕生します。交通の利便性が向上することはもちろんのことですが、箕面のまち全体に活力がさらに生まれます。

また、教育委員は、実際に子どもを学校へ通わせている保護者の視点から、箕面の教育について議論し改革を進めていただくべく、公募によって選びました。小中学校の全ての普通教室にエアコンや電子黒板を導入するなど、教育環境の整備を進めています。教育の内容面でも、来年度から小中学校の全学年で、毎日の英語活動の実施に向けて、既に試行授業も始めています。

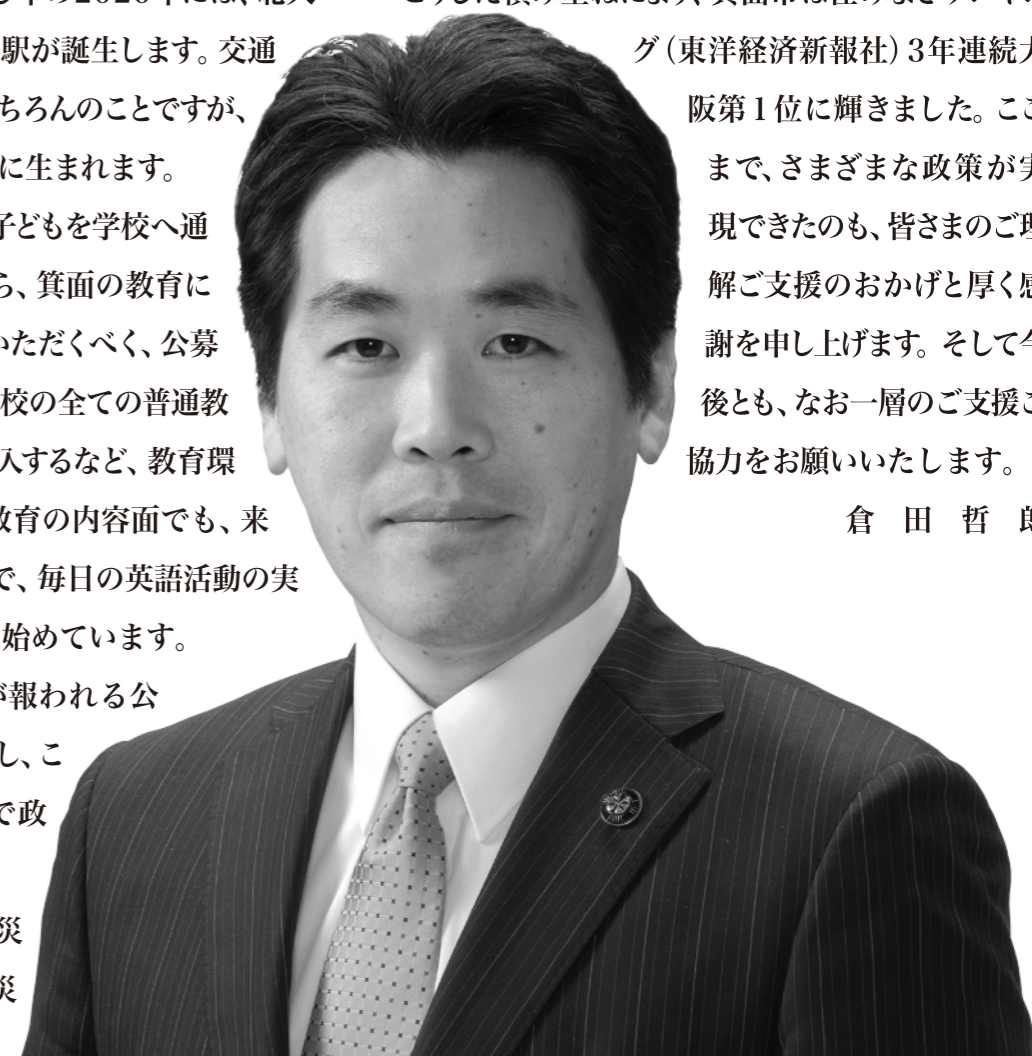
さらに、真に頑張る職員が報われる公務員制度改革を断行しましたし、このほかにもさまざまな分野で政策を実現しています。

たとえば、自助・共助の防災対策として進めてきた地区防災

委員会も、活動が定着し、それぞれの地域で自立的に活動を行っていただいています。市では、公園に地域防災ステーションの整備を行うなど、更なる市民の安全安心を高めるべく取り組みを強化していきます。

こうした積み重ねにより、箕面市は住みよさランキング(東洋経済新報社)3年連続大阪第1位に輝きました。ここまで、さまざまな政策が実現できたのも、皆さまのご理解ご支援のおかげと厚く感謝を申し上げます。そして今後とも、なお一層のご支援ご協力をお願いいたします。

倉田哲郎



40歳の日記—箕面市長 倉田哲郎ブログ

<http://blog.kurata.tv/>

箕面の未来に向けて挑戦し続ける倉田哲郎市長の行動の軌跡を綴ったブログです。

災害と戦う

今年は台風や集中豪雨が多発し、全国で大きな被害が発生しました。箕面市内でも水が溢れたり、土砂崩れがありました。被災された方々に謹んでお見舞い申し上げます。

倉田哲郎市長は、度重なる災害のなかで、迅速な避難所開設や避難指示の発令など、全力で取り組んできました。その一方で、この夏の被害の経験と教訓を活かし、次に備えるため、素早く防災体制の強化・充実を実現しようとしています。

具体的には、今回、一部地域で水が氾濫したことを受け、「水防政策推進課」を新設し、被害の詳細な原因分析と、水路・河川・下水道・ため池などの総合的な水害防止対策を打ち出し、早速、改修・排水力増強工事にも着手しました。今後、最新技術のGISシステムも活用し、氾濫シミュレーションもしながら、市内全域で水害に強いまちづくりを進めていこうとしています。

また、地形的に災害が多く、道路網が寸断されやすい止々呂美地区には、現地完結型の指揮所となる「箕面北部特別対策部」を発足させ、箕面森町近辺に住む職員24人に人事発令を行い、迅速な防災体制を整えました。

さらに、メーリングリストを使った災害初動時の緊急参集体制も強化しています。実際、9月10日深夜に発生した大雨では、深夜0時の召集にもかかわらず、約20分後には60人を超える職員が市役所に参集しました。

このように、倉田市長は、不測の事態から教訓を学び取り、素早い改善・強化を続けています。

子どもたちを 犯罪から守ろう

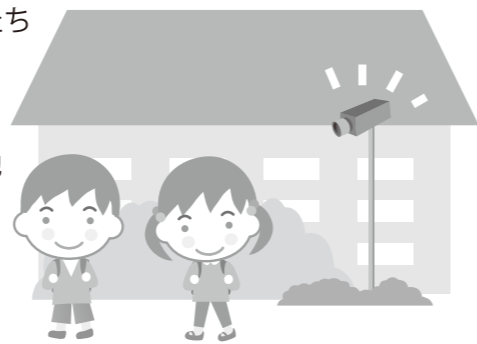
～通学路に防犯カメラ750台設置!～

小中学生が登下校中などに連れ去られる事件が毎年全国で100件近く起き、子どもを狙った犯罪が後を絶ちません。箕面市内でも児童・生徒への痴漢や声掛けなどの不審者情報が昨年度56件、今年度は半年ですでに36件にも達しています。

箕面市ではこれまでも「子どもの安全見守り隊」、「こども110番」、「青色防犯パトロールカー」、「ワンワンパトロール隊」など、地域の方で子どもたちの安全を守ってきました。

それでも不審者が増える現状を打破するため、倉田哲郎市長は「やるからには徹底的に!」と、警察とタッグを組み、市議会の賛成も得て、市立小中学校のすべての通学路に750台もの防犯カメラを設置します。犯罪を抑止し、犯人を早期逮捕する防犯カメラ。常時監視は行わず、自動的に上書き消去することでプライバシーにも配慮しています。

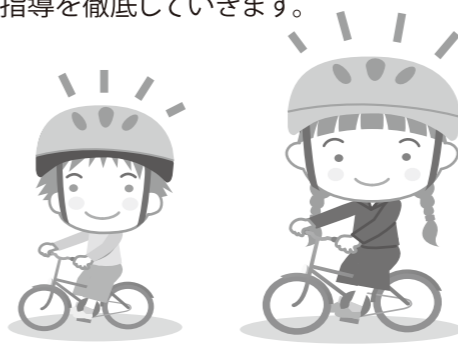
防犯カメラ設置ですべて解決ではありません。一番強力なのはやはり「子どもたちを見守る地域の目」で、防犯カメラはその補完です。これからも街ぐるみでの地域防犯へのご協力をお願いします。



自転車安全利用条例を 制定しました

倉田哲郎市長は、自転車利用中の中学生が死亡した事故を教訓に、自転車の危険運転をなくし、安全・安心なまちづくりをめざして「自転車安全利用条例」を制定しました。

この条例には、大きなポイントが2つあります。1つ目は、自転車の危険運転の取締りのために、箕面警察署を本格的に動かすことです。携帯電話を使用しながらの走行や、危ない自転車をみつけたら、警察は指導・警告してキップ(自転車安全指導カード)をきります。そして、小学生・中学生・高校生が複数回キップをきられた場合には、警察は保護者に通知し、市役所を通じて学校にも通知し、安全運転指導を徹底していきます。



2つ目は、学校の自転車通学にヘルメット着用を義務付けるもので、府内で初めての取り組みです。

さらに、条例に先駆けて、箕面市独自の自転車安全教育デジタル教材を作成し、箕面市のホームページで全国に公開しています。

自転車は、誰でも使える便利な乗り物です。でも、そのぶん危険も伴います。倉田市長も本気で動いています。地域をあげて、自転車の交通事故を減らしていきましょう。

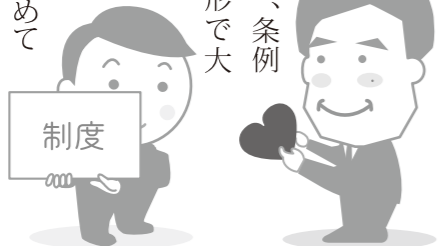
公務員改革

先般の6月議会において、2年前、倉田哲郎市長2期目に就任した際に公約として掲げた「公務員制度改革」が実現に至りました。これは、倉田市長の「頑張る職員には報い、頑張らない職員には一切報いない」という信念の下、全国で初めてとなる制度を導入したものです。

これまでの人事給与制度では、仮にある職員が仕事をサボり続けても、勤務年数に応じてその人の給料が上がり続ける「給与の完全年功序列」が存在しました。この「完全年功序列」により年齢による給与の差が、管理職手当を上回り、上司・部下の給与が逆転しているケースが多々あり、サボらず一生懸命仕事をしている若手職員のモチベーションを下げる二つの要因にもなっていました。

今回の改革は、頑張った職員に報いるための責任と処遇の一致する給料表や、頑張った職員を公平に評価する新たな評価制度の導入などにより、「年齢と処遇」を一致させることをやめ、「責任と処遇」を一致させ、まさに「年功序列の打破」を実現したものとなっています。

倉田市長は、条例改正という形で大きな一歩を踏み出したところですが、運用に魂を込めていくのはこれからの仕事となっています。今後、市役所の職員がモチベーションを維持し、納得しながら市民のための仕事に励む、新制度がそんな「礎」になっていくことを期待しています。



倉田哲郎市長の足跡 6年間の活動録		
年度	月	主な施策と出来事
20	8	・第15代箕面市長に就任(8/27)
	12	・財政構造改革の「緊急プラン(素案)・ゼロ試算」を公表
21	4	・平成21年度予算で6年ぶりに経常収支を黒字転換
	5	・箕面グリーンロード(トンネル)の値下げに向けた社会実験を実現
22	9	・新たなバス交通「オレンジゆずるバス」の実証運行を開始
	3	・市立小・中学校・幼稚園の耐震化率100%を達成(大阪府内初)
23	10	・全市立小中学校に地域防犯活動拠点「地域安全センター」を設置警察官が定期巡回
	12	・彩都の施設導入地区が「関西イノベーション国際戦略総合特区」に指定
24	4	・国・大阪府・鉄道事業者と協同で北大阪急行線の基本設計と現地調査に着手
		・保育所の待機児童数をゼロにする「箕面市待機児童ゼロプラン(H21.10)」を達成
		・箕面駅周辺と滝道のリニューアルを完了。「川床」本格実施
	5	・新稲の山林を無償で借し、市民の森「箕面新稲の森」として保全。甲子園球場1.3個分
	6	・豊能地区3市2町の図書館の広域利用を開始
	7	・全小中学校区で青色防犯パトロール活動(自主防犯パトロール活動)を開始
	8	・2期目 第16代箕面市長に就任(8/27)
		・人事・給与構造改革プロジェクトチーム(改革特命チーム・ゼロII)を発足
	10	・35メートル級はしご車を豊中市と共同運用開始。経費を節減しながら消防力を強化
		・全国初の「希望業務選択方式」による総合評価入札で公共施設の管理経費を約3億2千万円削減
25		・小野原地域の多世代交流拠点「小野原多世代地域交流センター」がオープン
		・全国トップクラスとなる子どもの医療費助成制度の拡大を議会で可決
	1	・「箕面学力・体力・生活状況総合調査(箕面子どもステップアップ調査)」を実施
	2	・「人事・給与構造改革プラン(たたき台)」を発表
	3	・「箕面市・緊急経済対策プロジェクト」を発表。74億6千万円の事業を地域に還元するとともに、市の負担を20億6千万円軽減
		・市役所窓口業務の「土曜日開庁」を試行実施(3～4月)
	4	・箕面の農地を守るため、箕面市版「農業公社」を設立
		・公募委員(保護者等)が中心となる教育委員会がスタート
		・福祉複合施設「稲ふれあいセンター」がオープン
		・耐震診断の無料化がスタート
	・旧耐震基準で建築された古い木造住宅の安全チェック	
	・止々呂美地域の田園景観を守るため「止々呂美田園景観保全地区」を指定	
	・箕面森町への「(仮称)履正社大学」の誘致に合意	
5	・箕面市役所で「パスポートの申請・受け取り」が可能に	
	・小野原地域に「多文化交流センター・小野原図書館」がオープン	
	・「オレンジゆずるバス」が月曜～土曜に本格運行を開始	
	・併せて、日曜・祝日にお買物や娯楽を目的とした新たな実証運行を開始	
7	・国の基準を超える「箕面市待機児童ゼロプランver.2」を策定	
8	・全市立小中学校でエレベーターの設置を完了(大阪府内初)	
9	・全市立中学校で自校調理方式による給食をスタート	
	・箕面市農業公社が野菜を供給。わずか半年で地産地消率16%を達成	
10	・子どものインフルエンザ予防接種を助成(10～12月)	
	・彩都地区にドッグランがオープン	
11	・箕面市農業公社が「関クボタと連携し、新稲、粟生間谷の遊休農地を再生	
12	・「ペット霊園等を規制する条例」を議会で可決	
1	・全市一斉総合防災訓練を実施(H24年度から毎年実施)	
2	・市役所窓口業務の「土曜日開庁」を本格実施	
	・平成26年度予算案を発表(市長就任以来6年連続で経常収支を黒字化。前年度より改善)	
	・北大阪急行線延伸の事業化について、大阪府、鉄道事業者との基本合意書を締結	
26	4	・ペットボトルのモデル収集を一部地域でスタート(H27年度から全市で実施予定)
	5	・桜井駅周辺地区再整備計画を策定・公表
	6	・「残土等の盛土を規制する条例」を議会で可決(大阪府内初)
		・人事・給与構造改革を推進。箕面市版「公務員制度改革」の関連条例を議会で可決
		・東洋経済新報社の「住みよさランキング」で箕面市が全国26位、3年連続大阪第1位
	9	・小学1年生から英語教育を試行実施(H27年度から本格実施の予定)
		・止々呂美・森町地区での現地災害対策本部として「箕面北部特別対策部」を設置
		・自転車事故の防止を目的とする「自転車安全利用条例」を議会で可決
		・全市立小中学校の通学路に750台の防犯カメラを設置する補正予算を議会で可決
		・不妊治療費用の助成に向けた補正予算を議会で可決
	・プロのスタントマンが交通事故を再現するスケアード・ストリート教育技法による自転車安全教室を市立中学校で実施(H22年度から毎年実施)	
	・水害の未然防止や迅速な対応を図るため、「水防政策推進課」を設置	
11	・子どもが選ぶ「箕面・世界子どもの本アカデミー賞」開催(H22年度から毎年実施)	
	・「ゆるキャラグランプリ」で滝ノ道ゆずるが全国13位、4年連続大阪第1位	